西之内町地車新調実行委員会通信

2021年
6月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712

西之内町新調地車
彫刻の物語背景と紹介（2）

本年も、はや半年が過ぎようとしており、時の早さを感じるこの頃、皆様におかれましては、実り多い半年であったことと拝察いたします。今年に入り、新調実行委員会通信によるだんじり製作情報をご覧いただいた方から、関心が少しずつ高まってきているというありがたい言葉を頂戴しております。

さて先月に続き、新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。

難波戦記に出てくる武将で日の本一の武将と称される真田幸村の場面についてご紹介します。

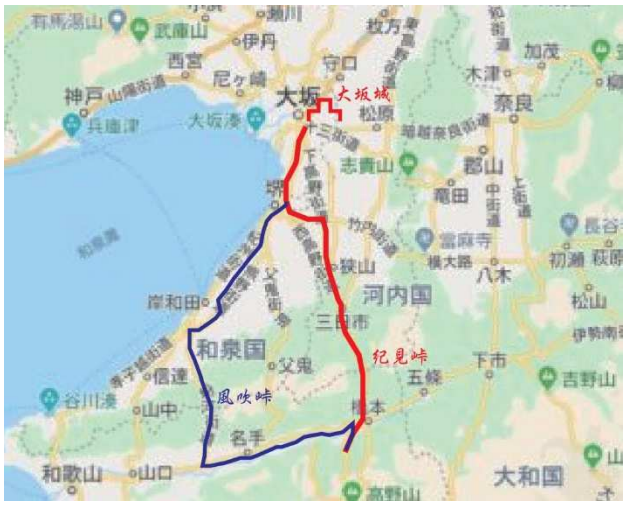
真田幸村は、真田昌幸の次男で、本名は真田信繁（さなだ のぶしげ）。通称は左衛門佐で、輩行名は源二郎（源次郎）。真田幸村の名で広く知られています。徳川家康と石田三成が刃を交えた関ヶ原の合戦では、親子が決別した犬伏の別れは有名なお話です。関ヶ原の合戦に破れ九度山に幽閉となった真田昌行、幸村は再起を常に考えていたと伝わっております。

慶長十九年（一六一四）七月、家康が豊臣家を滅ぼすための言いがかりとしか思えない「方広寺鐘銘事件」が起こりました。この時、大坂城全体の仕切り役で、十四年の歳月をかけた方広寺大仏殿の建設プロジェクトや大仏の開眼法要、秀吉の十七回忌の法要の奉行を務めた片桐且元は、徳川方と何度も交渉を重ねるが失敗。十月一日、家康は、諸大名に大坂追討を命令しました。

同日、且元は大坂城を退去。九度山に明石全登(あかしてるずみ)を送り、幸村に九度山を脱出して大坂城に入ってほしいと頼みました。その際、大坂方の使者は幸村に支度金として黄金二百枚、銀三十貫を渡しました。現在の貨幣価値で約八億七五〇〇万円もの大金と推測されます。

さて、その紀州浅野家の監視の厳しい九度山から大坂城入城までが、非常に謎の多いところであります。伝説では幸村は、近在の庄屋、年寄をはじめとする百姓に年来世話になっているお礼をしたいと呼び集め、数百人に大盤振る舞いをしました。そこで、皆が酔いつぶれたところを見計らって、百姓達が乗ってきた馬に荷物を載せて、主従百人ばかりで紀の川を下ってゆうゆうと脱出したといわれています。

この脱出に関しては諸説あり、『徳川実紀』によれば、九度山を出た幸村一行は、「紀伊川（紀ノ川）」を渡り、橋本から「木目峠（紀見峠）」を越えて河内国に入り、大坂城入城を果たしたといいます。『徳川実紀』は「木目峠」から先の経路については「河内路」と記すのみで、具体的なルートを明示していませんが、「木目峠」を越えると、高野街道は河内長野で東高野街道と西高野街道に分岐し、西高野街道からはさらに中高野街道が分かれ、その中高野街道からさらに下高野街道が分かれます。『真武内伝追加』によれば、幸村は、九度山脱出当日



謎多き幸村一行の脱出ルート

は「河州小山」（大阪府藤井寺市）で泊り、翌日の「巳の剋」（午前十時頃）に大坂城に入ったといわれております。これが正しければ、幸村は河内長野からは東高野街道を進み、古市（大阪府羽曳野市）から古市街道をとり、小山から平野郷（大阪市平野区）を経て大坂城に到ったことになります。

一方で、『難波戦記』では風吹峠を越えたのではないかとの説もあり、蔵王峠を越えたとする主張もあります。また、和泉市父鬼には「真田橋」があり、鍋谷峠を越えてきた真田幸村はここで父鬼川を渡ったと伝えています。いずれの経路をたどったのかは俄かに決しがたいが、ともかく幸村一行は大坂城に入り、大阪冬の陣へと物語は

九度山　真田庵（善名称院）

続きます。幸村一行はどの道を通り大坂城を目指したのか、その時の家来衆は誰でどのような風体であったのか。非常に謎多きところですが、数ある仮説のある場面を、山本師は新調だんじりの彫刻で見事に表現しております。

九度山 真田祭より
真田父子
と真田十勇士
実在したかどうか
は野暮なお話です

新調地車の彫り物 進捗報告

現在、山本師は土呂幕の部分の彫刻を手掛けております。難波戦記の中でも有名武将の合戦の場面です。合戦時の様子は、文献や古書などから調査し、武将の当時使っていた甲冑や槍なども再現していただいております。だんじり彫り物を見比べるとき、同じ場面であっても、武将の持っている武具や甲冑に様々な表現の違いがあり、面白いところでもあります。土呂幕板材の厚みは、他の部材よりも分厚く大きさもあるため、荒彫りの段階でも人物や馬の脚などの躍動感が相当なものと感じます。

見送り下連子の厚み（前板～奥板）
約 22 ㎝（7 寸弱）の奥行です。
かなり深い出来上がりとなります

見送り下連子の部分では、順次仕上げの段階であり前板から奥板の仕上がりは順調であります。腰周りと称される部分にも順次入っていく工程です。

土呂幕荒彫り作業の山本師
お弟子さんも鑿を揮ってます

新調委員の独り言

新調実行委員会通信を創刊してはや6カ月がたちました。実行委員会の活動報告を皆様に報告する中で、情報をすべて述べてしまうと、完成時の楽しみが半減するので、非常に葛藤するところでもあります。進捗を確認している段階でも興奮を覚える出来栄えですので、完成をお楽しみに。

西之内町地車新調実行委員会　検索